

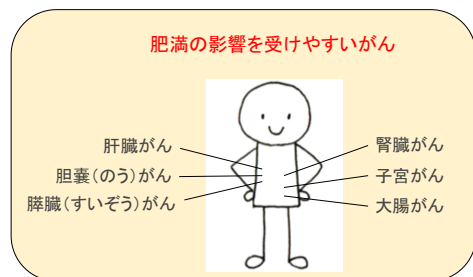
日時 平成30年12月1日(土) 14時~15時30分

会場 島根大学生物資源科学部1号館101教室(松江市西川津町1060)

予防になる?原因になる?がんと免疫力アップのための食生活・生活習慣の選択

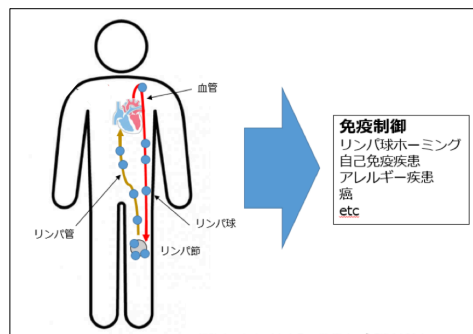
廣瀬 まゆみ (同志社大学 研究開発推進機構 URA)

日本は、医療技術が格段に進み、様々な病気を克服しました。高齢化が進んだ結果、認知症患者とがん患者が増えています。今、日本人の2人に1人が、一生のうちに1度は何らかのがんになると言われ、しかも日本人の死因第1位となっています。その割合も年々増加し、がんは身近な病気で、その予防は多くの人の関心となっています。一昔前は、がんは不治の病であり恐ろしいと考えられていましたが、今では、定期的ながん検診が行われ、早期発見・早期治療が可能ながんが増えました。食生活や生活習慣の研究も進み、日本人に適した科学的根拠に基づいたがん予防法も提示されています。



一方、がん患者のうち、がんが死因ではなく、感染症で亡くなる方も多く存在しています。それは、がんの治療中の方の多くは、がんではない方と比べると、免疫力が低下する傾向があるからです。免疫力が低下した状態で感染症にかかった場合、通常より重症化する危険性があります。そのため、がんではない方以上に、がんの治療中の方には感染症予防が大切です。

また、高齢者は若い人よりも感染症にかかりやすいのは、免疫力が低下しているからです。免疫の機能は60歳を超えると20代のおよそ半分以下になるといわれています。加齢によって、免疫の機能を持つ細胞の産生が減り、免疫細胞の機能を助ける臓器が衰えると、体全体の免疫力は低下します。このため、高齢になると様々な病原体の影響をまろに受け、病気にかかりやすくなるのです。感染症予防として、予防接種や食生活、生活習慣の研究も多くなされています。



本日は、「予防になる?原因になる?がんと免疫力アップのための食生活・生活習慣の選択」と題して、食生活や生活習慣のお話を中心に同志社大学の取り組みも交えて紹介したいと思います。

講師紹介：大学院・研究所で免疫系細胞浸潤や癌転移の研究と創薬に従事。島根での体験によりデザイン・絵画など芸術活動にも傾倒(学会・大学のロゴマークをデザイン)。最近、音楽活動にも興味を持つ。現在URA(研究プロジェクトの企画・運営、知的財産の管理など研究支援業務を行う者)として多角的な視点から研究の推進に取り組む。

今回の講演では島根での体験についてもお話しいただきます。

<主催・問い合わせ先>

島根大学総合科学研究支援センター(0852-32-6109)

idenshi@life.shimane-u.ac.jp

<会場案内>

<http://www.shimane-u.ac.jp/access/>

入場無料
来聴歓迎